



風雅
漆尺

若乃娘袖日記

三之卷

18
1674
3



一〇一

孝行娘袖日記之三卷



一 日此酒盛りにまもあまも碎兼神しく誓の上前虎
且好儀志うんむらと森どにめて目成付きたる下
附一 生よたぐつ交遊とすふ女の太橋流るゝ武士の娘が
母り習うこは傳のあてあり

諸君之くは品一かくと世俗まよひらちたふるゝ
来り侍りとも知ぬ長来者此娘たふげりも又此日の酒宴礼儀此
字後世の男深井物たふは室に都る石所に運るるそけは毎日
あまふふふありあまふふる甲にありふる年がぞ聲旅高し同
扱る諸人あまふふふの女娘たふ来り又此の娘ふ山房松
男とあまふふふ下種は魂とあまふふ招か男とあまふふ
男とあまふふふ下種は魂とあまふふ招か男とあまふふ

て歎けしむと東大橋のかりにど何れか人のついでに道に公事一々他人よみて
 も勢の町とていふまへに父の約束とあるとさうさうも日と昔も此宿を町に傳り
 とさうまうひいづれあまはせんびさくとさうてあつ人極力うとさう神力をと集積の
 一掃市中で頼る久しういひ。我々父と此形凡俗あるたうに父はあつてお付を傳
 きくら。その印さうあつるれ。名いふ義橋とやまなほしとさういふ六郎の
 房でいふいふとまに不思成る親子此對面とさうてさういふ人さうとて六郎
 此れ備上とあるとこれ柳原とまよつたもいふ色も秋も此れおと叫母此橋
 死つるも傳りて傳のあり秋とまに父此傳りて半ばおまと物さうより京
 江戸大坂いふに及ぶ。此はさういふ色もあつて今に秋秋を
 つるも知れぬとさう運つたけいおあつくとまにさういふ色もあつて死つるもさ
 と。あ又今にさういふ命まよいのでさういふとまにさういふ色もあつて去年より柳此知
 る人が存活せりさういふお娘の小屋小徳恒存十年とさういふ色もあつて今に秋秋を

つさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 能くさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 秋をさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 中のさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 けさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 入さういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 ぬらさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 のは病死とて秋秋のさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 ぬけさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 とらさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて
 大は悦んますとあつたれお娘のさういふ色もあつてさういふ色もあつてさういふ色もあつて

お便がはるるうと書て書て此の如く人々を頼成成町にいたすこと
奇ごとく男は立の甘くお住持の如くお家持の如くあれはよくい
よ又孝女と男は元と女にはまろむ人々の如くか今よはるるあり
之まよ百あはして南地人んじ石前の子孫を頼成とては人々か人々か
かまていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
わそれ勅。ま主人頼成の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
南地より頼成の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
知せと存すと云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
頼成の内はあかんことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
もよとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
よとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
よとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く

志のい入はれよと書て書て此の如く人々を頼成成町にいたすこと
おと云ふと後より抱えりて。よくいさごとくお住持の如くお住持の如く
頼成の内はあかんことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
たごいさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
よとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
生るる子孫の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
よとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
あまよとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
まよとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
よとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
よとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く
よとていさごとくお住持の如くお住持の如くお住持の如くお住持の如く

其の云ふに昔今四叔任をもてに...
義烈に二返りてあふべし...
十年未だ移らぬ親の節とて...
親あせよ親えんとせし時...
親えんとあせよ親えんとせし時...
のぶとさし...
うらまてはう合らる今日...
親り而し今は...
主...
理とつらう地政の情の詞...
いふ...
す...
す...
す...

三

三 親せんでう人...
一 義徳は...
附るに義ある...
ハよ...
義に...
義...
云...
た...
分...
通...
通...

一 義徳は...
附るに義ある...
ハよ...
義に...
義...
云...
た...
分...
通...
通...

お井はあづと濱のま身の屋（おの）おあてはひあ父の討きては野系
よき店とむとびてお侍もさうとあり。お事々々くよ女飛身が所
このむきおぬより親伯父のよにあり。お性らりのぞんで種ちよくお人れ
しお好るもりの事おさんとおらおよろういんりて百貫中かきと
さぬのうらとらんよりお芝居のぼろ気さうりや。お屋敷のゆと業に
おまじとぬらうと人同よりうらお店おまじ小行。お年人おらういんり
おらうしつらぬおのつおおまじとらう。おま今入おけだうも

おの娘袖日記 之々巻終

小全巻終印法

水

